

性差別に関する大学生の意識調査

○皿田 遥¹・#野寺 綾²

(¹ 福山大学大学院人間科学研究科・² 福山大学人間文化学部)

目的

性差別に関する研究の多くは女性差別を題材にしており、男性差別を対象とした研究はまだ発展段階にある(大石・北方, 2013)。これは「優位な性」とされる「男性」への差別が社会的に問題視されにくかったためである(山田, 2008)。しかし「女性よりも男性の方が差別されている」と感じている男子大学生も存在する(源, 2011)。そこで本研究では大学生の性差別への問題意識を検討した。また自由記述形式で各性差別の具体例の記載を求めた。質問紙での差別意識に関する調査では一問一答形式が多いが、性差別の具体的記述を得ることで大学生の性差別の捉え方を多面的に理解できる。なお男女共に自己性の差別の方を問題視する傾向があると仮説を立てた。

方法

対象者 4年制大学に通う大学生186名(男性105名, 女性81名)。平均年齢は19.0歳($SD=1.0$)であった。

質問紙 人権観・差別観を測る尺度(神原, 2012)の質問項目の「差別」と記載された部分を「男性差別」または「女性差別」に変更した。また、男性差別と女性差別にはどのようなものがあると思うか、自由記述形式で回答を求めた。調査は集団で実施した。

結果と考察

因子分析結果(表1) 各人権観・差別観尺度の項目について因子分析を実施し、第1因子「人権推進支持」第2因子「差別否定」を抽出した。

男性/女性差別項目の t 検定 各差別意識において、性別によって有意な差があるかを検討するため、対応のない t 検定を行った。男性差別項目と女性差別項目の得点にそれぞれ性差は見られなかった($t(184)=0.71, n.s.; t(184)=1.44, n.s.$)。しかし、因子ごとに検討した結果、女性差別項目の第1因子にのみ

有意差があり($t(184)=2.66, p<.01$)、男性($2.97; SD=0.78$)よりも、女性($3.25; SD=0.67$)の方が、得点が高かった(女性の方が女性差別への問題意識は高い)。よって仮説は一部支持された。女性は自身の差別に対して高い関心を持っていることが考えられる。第2因子の「差別否定」では性差はみられなかったことから、女性差別を否定する意思是男女に差はないといえる。また、男性差別項目では両因子ともに性差はみられなかったため、男性差別に対する問題意識には、男女に差はないことがいえる。

自由記述のカテゴリ分け(表2)

表2 男性差別(表上段)と女性差別(表下段)のカテゴリ

性別	カテゴリ					
	女性優遇/男性不遇	男らしさ	仕事	冤罪	行政支援	ハラスメント
男性	24	10	4	6	4	5
女性	9	19	13	9	7	2
全体	33	29	17	15	11	7
性別	仕事/就職					
	給料	ハラスメント	家事/育児	社会的地位	女性優遇	女らしさ
男性	29	12	8	1	4	7
女性	37	10	11	11	5	1
全体	66	22	19	12	9	8

男性差別、女性差別のカテゴリの種類が異なっていることから、大学生が想定する各差別の内容は異なっていることがわかる。

本研究では男性ですら男性差別を問題として捉えきれていない可能性が示されたが、これはむしろ男性差別を主張することが困難な証ではないだろうか。男性が不利であることを主張することは「男らしさ」からの逸脱を意味しているからである。男性が「男らしさ」から逸脱することは女性のそれよりも反感を持たれやすい。今後は男性の持つ性役割観を考慮し、男性差別への問題意識を検討する必要がある。性役割観が強固なほど差別を主張できないのであれば、性役割観を変容することが重要となってくる。

(本稿は2015年度福山大学人間文化学部の卒業論文集に掲載したものを加筆修正している)

表1 男性差別項目(表上段)と女性差別項目(表下段)の因子分析結果(主因子法・バリマックス回転)

項目	因子	
	1	2
7 男性差別問題に無関心な人にも、差別についてきちんと理解してもらうことが必要である	0.730	-0.064
4 男性差別を受けてきた人に対しては、格差をなくすために行政の支援が必要だ	0.700	0.131
1 あらゆる男性差別をなくすために、行政は努力する必要がある	0.676	0.110
10 男性差別される人の話をきちんと聴く必要がある	0.638	-0.150
6 男性差別は、人間として恥ずべき行為の一つだ	0.573	0.301
* 9 どのような手段を講じてても、男性差別を完全になくすことは無理だ	-0.127	0.697
* 8 男性差別だという訴えを、いちいち取り上げていたらきりがない	0.024	0.674
* 3 男性差別は世の中に必要なこともある	0.287	0.556
10 女性差別される人の話をきちんと聴く必要がある	0.783	-0.050
4 女性差別を受けてきた人に対しては、格差をなくすために行政の支援が必要だ	0.779	0.055
7 女性差別問題に無関心な人にも、差別についてきちんと理解してもらうことが必要である	0.742	0.054
* 8 女性差別だという訴えをいちいち取り上げていたらきりがない	0.142	0.705
* 9 どのような手段を講じてても、女性差別を完全になくすことは無理だ	-0.097	0.625

*の項目は逆転項目を示す